

2009 年植林作業報告 速報

(バヤンチャンドマン植林)



以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

・ 植林作業実施概況

植林実施日	2009 年 5 月下旬			
植林場所	モンゴル国中央県バヤンチャンドマン村周辺			
植林地名 本数・面積	緑の募金	日・モ友好の森	約 1 万本	約 5ha
	グリムス	GNC 共存の森	約 5000 本	約 2.5ha
	株式会社みづま	GNC 共存の森	約 5000 本	約 2.5 ha
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> の 2 年生苗木			
作業	バットアムガラシ氏 (GNC Mongol 育苗専門スタッフ) ナッサンビレグ氏 (GNC Mongol 代表) バヤンチャンドマン村の学生及び住民約 20 名他			

・ 植林場所



図 1. 広域図 (2009 年バヤンチャンドマン村植林地)

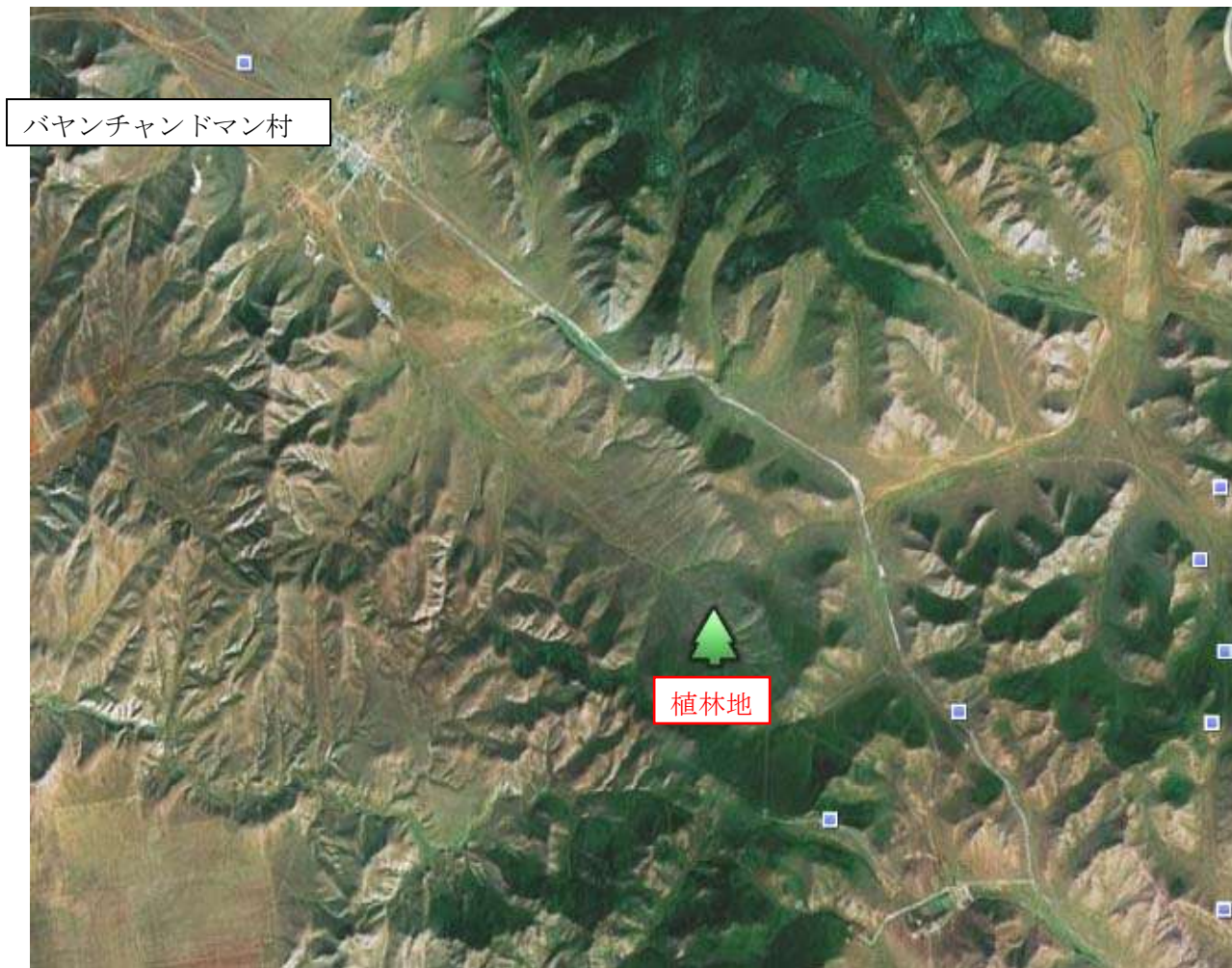


図 2. 位置図 (2009 年植林地の位置)

・ 植林地の位置情報

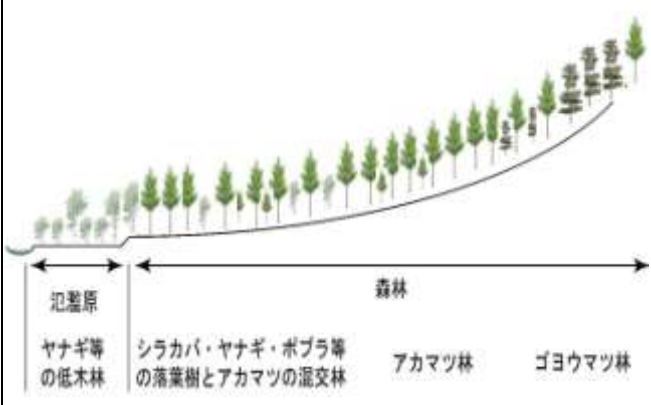
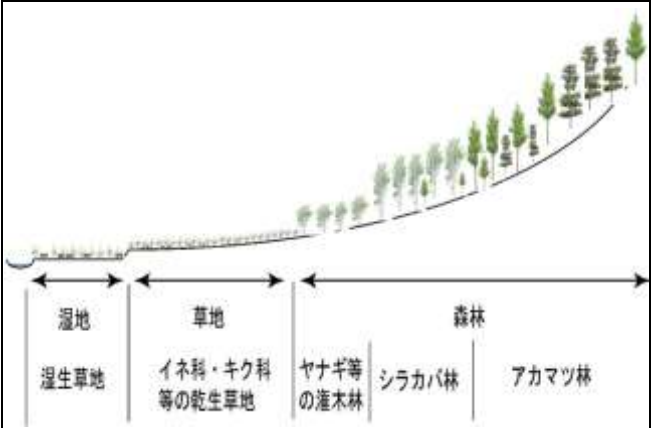
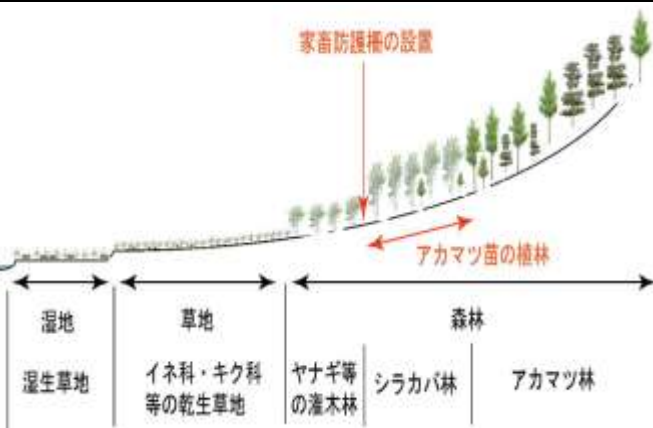
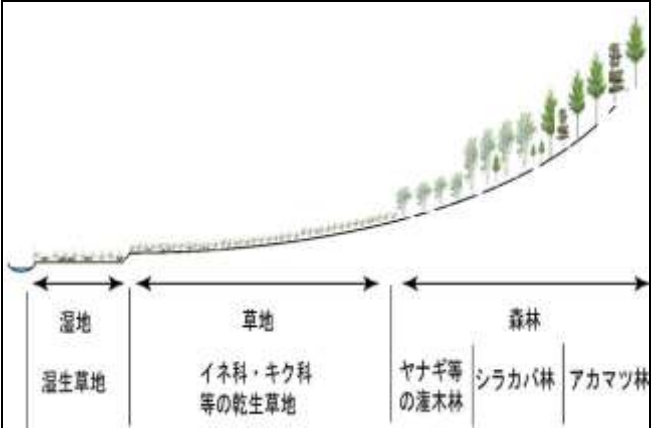
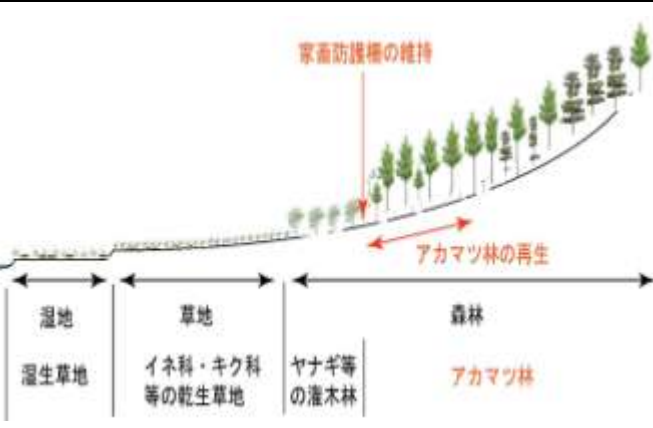
GPS point	北緯	東経
2009 年 バヤンチャンドマン村 植林地 (代表点)	48° 08' 43.6"N	106° 22' 06.2"E

・ 植林地の標高

標高約 1450~1500m 前後

- ・ 北斜面→土壤水分が南斜面に比べ多く、植林に適する。
- ・ 森林後退が顕著→放牧及び伐採等により森林後退が顕著、放置すれば森林消失の可能性はある
- ・ 森林後退進行中の場所に実験的に植林等の対策を実施し、森林後退をくい止めアカマツ林の再生を目指す。

表. バヤンチャンドマン村周辺の森林遷移と GNC の植林対策

		潜在自然植生（人為の影響を受けていないと仮定）		
過去				<ul style="list-style-type: none"> ・バヤンチャンドマン村周辺ではアカマツ林を主体とした森林植生が成立していたと考えられる ・家畜や伐採圧力はなかったと想定した場合、河川・氾濫原・林縁・森林が連続的に分布していた。 ・森林を中心とした水分循環のある健全な生態系が広がっていた。
現在	放置（対策なし）			<ul style="list-style-type: none"> ・放牧による草地拡大、薪材採取・用材採取による森林後退 ・家畜の森林侵入により稚樹の食害等の森林更新の阻害（特に冬季）
	植林等の対策を実施			<p>【植林等の対策内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜防護柵の設置 ・アカマツ苗の植林 ・冬季の干草の確保（地域への分配）
未来	放置（対策なし）			<ul style="list-style-type: none"> ・更なる草地の拡大、森林の後退 ・水分循環量の減少、生態系の希薄化 ・木材の枯渇
	植林等の対策を実施			<p>【植林の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の後退をくい止め、アカマツ林を再生 ・森林生態系の回復により自然環境の再生 ・木材の確保

・ 植林地写真

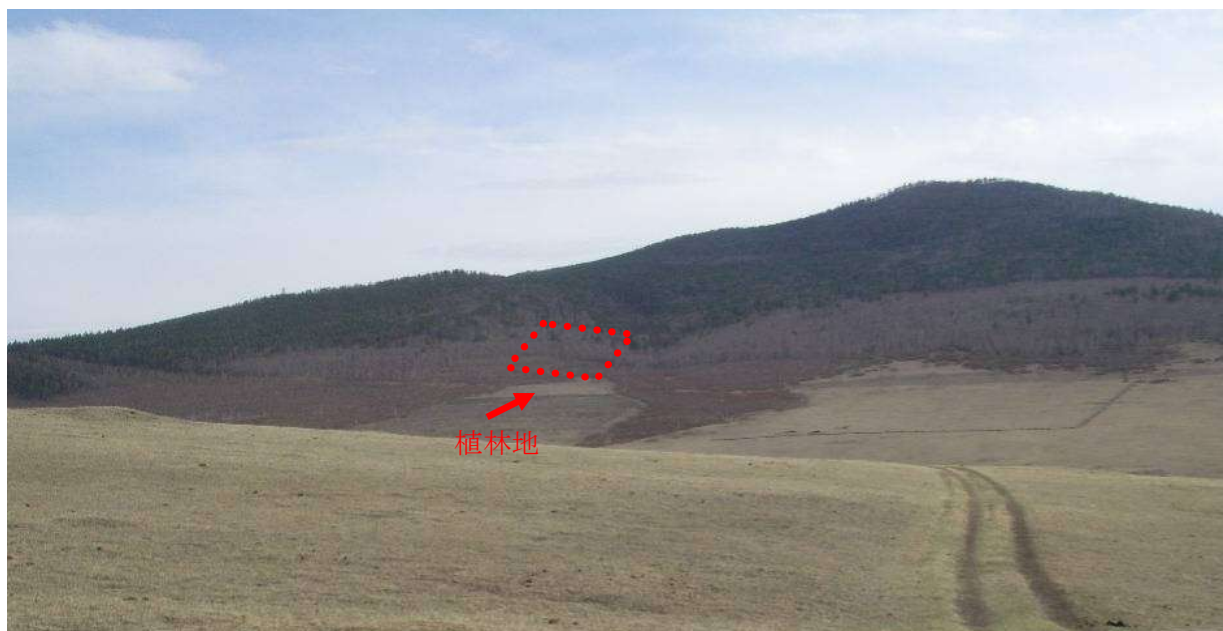


写真 1. 植林地遠景

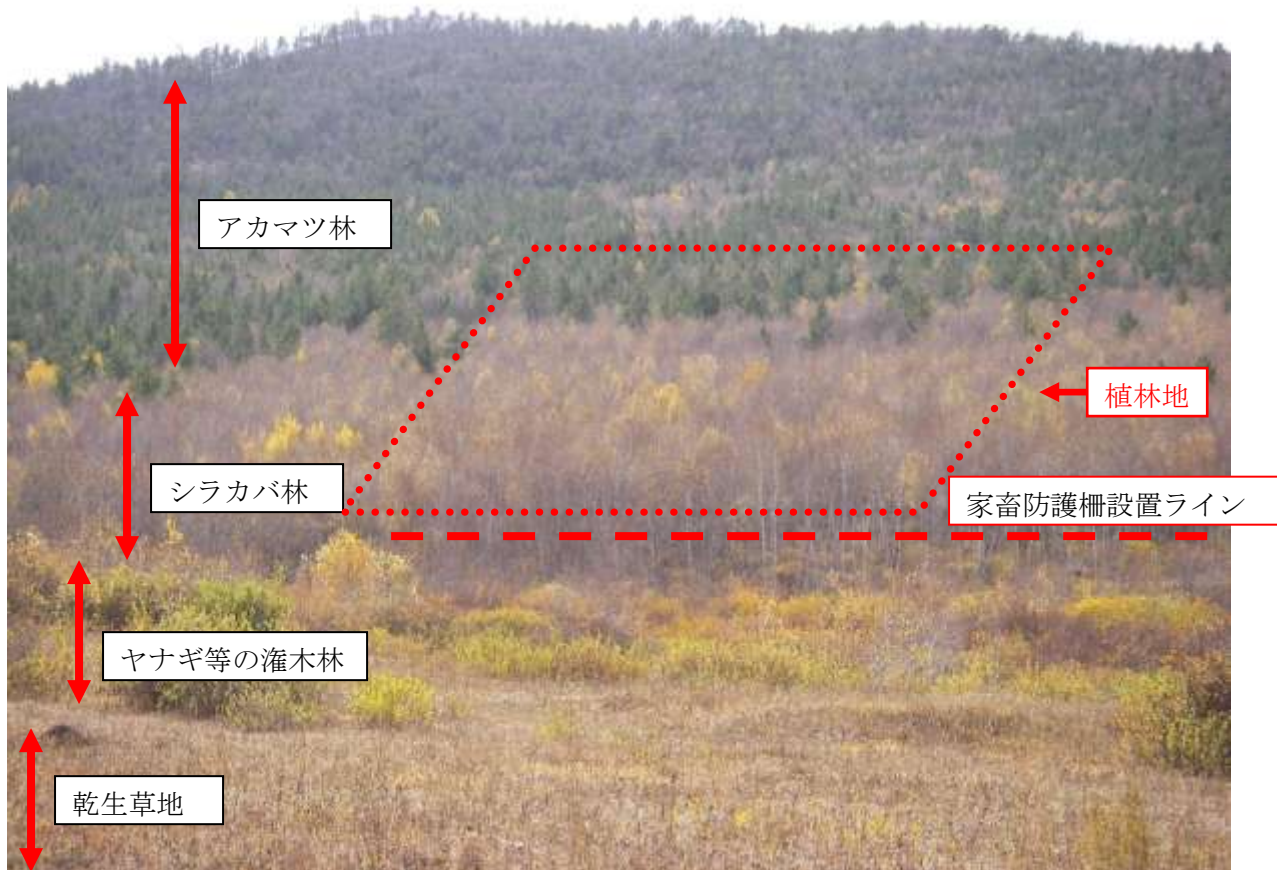


写真 2. 植林地近景

・植林準備作業写真



写真 3. 準備作業



写真 4. 準備作業



写真 5. 準備作業



写真 6. 仮植え作業



写真 7. 準備作業



写真 8. 準備作業

・ 植林作業写真



写真 9. 植林作業



写真 10. 植林作業



写真 11. 植林作業



写真 12. 植林作業

・ 植林作業に協力して下さった方々の集合写真



写真 13. 集合写真